



やまて図書



「ヨセフ年」閉年を前に

2020年12月8日から始まった「ヨセフ年」は2021年12月8日で閉年します。1870年に教皇ピオ九世によって聖ヨセフが「普遍教会の保護者」と宣言されてから150年、それを記念したものです。「ヨセフ年」開年に伴い、使徒的書簡『父の心で』が交付されました。カトリック中央協議会のホームページには全文掲載されていることから、お読みになった方も多いことでしょう。『福音書』はヨセフについて多くは述べていません。貧しい大工であるヨセフはイエスとマリアを愛して大切に、養い、守った。正しく神のみ旨に従う人だと書かれているだけですが、『父の心で』は福音書に基づいて生き方、考え方を探り、ヨセフを浮き彫りにしています。理想の父親像を追求しているのではありませんし、父の心でと言っても男性だけに求めているものでもありません。これは、キリスト者の生き方のヒントになるでしょう。閉年を前に、今一度『父の心で』読んでみてはいかがでしょうか。(参考:カトリック中央協議会HP)

教会暦11月

11月 (抜粋)

11月1日(月・祭・白) 諸聖人の日

11月2日(火・白紫黒) 死者の日

11月14日(日・祝・白) 貧しい人のための世界祈願日

11月21日(日・祭・白) 王であるキリスト

11月23日(火・祭・白) 横浜教区司教座教会献堂記念日

11月28日(日・祝・紫) 待降節第1主日

豆すぎる知識 2020年12月8日から2021年12月8日まで ヨセフ年

第5回 聖家族(最終回)

聖家族とは、主に幼子イエスとマリア、養父ヨセフが揃った構図の絵画です。中世時代、この主題は宗教画らしい威厳がありましたが、近世以降は親しみある家族像で描く画家が現れます。ムリーリョは<聖家族>を一般家庭の家族として描いています。

16世紀後半、アビラの聖テレジアは聖ヨセフを崇敬しました。17世紀、勢いづいたプロテスタントに対抗する中で信仰篤くマリアとイエスを守ったヨセフへの信仰は高まっていき、老人ではなく壮年男性の姿が見られるようになります。

聖母が冠に与ったように、聖ヨセフも後にバラの冠を授かりました。



バルトロメ・エステバン・ムリーリョ
<小鳥のいる聖家族>1650年
プラド美術館蔵(画像:Wikipediaより)

今月のおすすめ図書

愛の四季

中村 清子 (著)



「やまて」10月号に、
横浜みこころ幼稚園の

紹介がありました。5代目園長である中村清子さんは、この幼稚園の基盤を作った方です。図書室には中村清子さんの著書があります。フリガナがふつてあるので小学校中学年からお読みいただけます。小さなお子さんには保護者の方が読んであげるのも良いでしょう。老若男女、すべての人の心に響き、黙想のヒントとなるでしょう。

横浜天主堂 150周年誌

横浜天主堂・カトリック山手教会
150年史

横浜天主堂献堂・
カトリック山手教会150年史



1933年(昭和8年)11月23日に現在の聖堂が献堂されました。現在の祭壇の両側にはお花がありますが、当時は2体の天使像がありました。あれから88年、人でいえば米寿です。最近健康診断を受けて傷む箇所の治療中。山手教会の記念誌を開いて誕生当時の聖心聖堂に浸ってみませんか?

使徒的書簡 父の心で

教皇フランシスコ (著)

カトリック中央協議会事務局 (訳)



聖ヨセフが「カトリック教会の保護者」として宣言されてから150年経ち、教皇フランシスコによって2020年12月8日から2021年12月8日が「ヨセフ年」と宣言されました。パパ様が説くヨセフの生き方が胸に染みます。